

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	決算特別委員会 産業建設分科会		会議場所 第2委員会室
			担当職員 池永
日 時	平成29年8月24日(木曜日)	開 議	午後 2 時 50 分
		閉 議	午後 3 時 47 分
出席委員	◎奥村、○石野、並河、藤本、木曾 (欠席:明田委員、西口委員)		
出席理事者			
出席事務局	片岡局長、池永主任		
傍聴者	市民1名	報道関係者一名	議員一名

会 議 の 概 要

14:50

1 開議 (奥村委員長あいさつ)

(事務局日程説明)

<事務局主任>

本日は、前回配付資料を踏まえ、対象事業の決定を行っていただきたい。なお、対象事業数は、3項目程度を目途に各分科会で判断いただきたい。

2 事務事業評価対象事業の選定

<奥村委員長>

各委員に提出いただいた資料に基づき、順番に説明いただきたい。私は、「農業事務経費」を抽出した。土づくりセンターの横にある農業公園の管理に600万円程度支出してきたが、どのようなことをしてきたのか把握したい。平成29年度からは農業公社からシルバー人材センターに替わっているが、平成28年度までの実績を検証したい。

<石野副委員長>

1点目に「農業担い手づくり育成事業経費」を抽出した。いろいろなところに助成しているが効果を知りたい。今後も続けるのか。

2点目に「鳥獣対策事業経費」を抽出した。3年前にも評価を行ったが、サル等が多く出てきている。先進的な取り組みをされているが、現実には鳥獣が出てきて生産者の意欲が失われている。今後も引き続きしっかり取り組まれないものである。

3点目に「観光推進経費」を抽出した。いろいろな事業があるが、効果的にどのようにつながってきているのか。

<並河委員>

「公園緑地整備事業費」を抽出した。前のスタジアム用地であるが、事業そのものがどうなっているのか。今後どうするつもりなのかを含めて聞きたい。

<藤本委員>

1点目に「多面的機能支払推進事業経費」を抽出した。具体的な支援内容が分からない。耕作放棄地等の現状や、周辺環境が適正に管理されているのかを聞きたい。

老朽化が進む水路等の長寿命化のための補修・更新を支援するとのことだが、具体的な関連施設の状況や成果は。具体的にどこまで事業が進んでいるのか。

2点目に「商工業振興対策経費」を抽出した。亀岡商工業振興事業補助経費として1250万円支出しているが、成果はどうか。また、昨年からは平和祭事業の主催が商工会議所から亀岡市の花火大会実行委員会に替わった。予算や運営面がどのように変わっているのか確認したい。

<奥村委員長>

花火大会は今までから花火大会実行委員会で、観光協会・市・商工会議所が行っていた。補助金はずっと一緒である。また現在も商工会議所の各部会が会員から寄附金を集めており、市が行っているわけではない。なお、40、50、60周年等の記念大会には補助金を増やしている。

<木曾委員>

1点目に「観光推進経費」を抽出した。ちなみに花火大会は商業振興より観光という面が大きいので、本来こちらに入れるべきだと考える。補助金がたくさんあるが、適正に執行できているのか。官学連携の事業内容等、具体的にそれぞれの補助金の使途をしっかりと聞きたい。削れるものは削り、増やすものは増やし、メリハリをつけた予算付けをすべきである。

2点目に「公園緑地整備事業費」を抽出した。京都・亀岡保津川公園について、村上座長も言われていたが、亀岡が具体的に方向を出さなければならない。アユモドキの保全はしっかりと行い、公園をどうするのかという具体的な提案をしっかりと、京都府と協議を進めるべきだと考える。その件が前に進んでいないので確認したい。

<奥村委員長>

明田委員と西口委員は皆に一任するとのことであり、この中から選定する。意見は。

<藤本委員>

花火大会だが、商工会議所の会員数が減少し、なかなか財源が確保できない。市の補助金は増えていないのか。

<奥村委員長>

増えていない。

<藤本委員>

宇治市のように中止している市も出てきている。観光推進経費と公園緑地整備事業費がそれぞれ2人から上がっているの、考慮して絞り込んでどうか。

<奥村委員長>

基本的に事務事業評価はできるだけ単費の方がよい。また決算に関する事なので、公園緑地整備事業費はどうか。

<事務局主任>

公園緑地整備事業費について事務事業評価を行うのは難しいかもしれない。

<奥村委員長>

今後のことを聞きたいのはよくわかるが、決算は買い戻しの関係なので、特別会計の分を一般会計にするだけの話である。

<木曾委員>

買い戻しをするにしても、それだけの財源を使うものである。公園としてしっかりと目的を持ってしていかなければならない。どんな公園になるのか前が見えないのに買い戻しても仕方ない。

<奥村委員長>

公園を整備する費用としての予算付けではないので、決算とは別に、公園整備についての話を聞く方がよいのではないか。

<木曾委員>

買い戻しについて何も言うことはないのでそれでよい。委員長に一任する。決算の部分で議論できる機会を設定してはどうか。

<奥村委員長>

実際に公園関係で行っているのはアユモドキと管理費くらいではないか。

<木曾委員>

現在はそのくらいしかないが、完全に買い戻したら都市公園になる。その時にどうするのか。目標をもってお金を使わねばならない。この後どうするのが問われている。

<奥村委員長>

まちづくり推進部とも協議するので、いったん預かりたい。事務事業評価からは外すことでよいか。(了)

<奥村委員長>

多面的機能支払推進事業経費は補助金が4分の3、市が4分の1の負担となっている。営農組合等の組織を区や町単位で作り、水路や農道等を各組織で修繕し、事業報告を受けている。4分の3が補助金であるがどうか。

<藤本委員>

耕作放棄地を適正管理しようとしてされているが、成果としてどう変わっているのか。また、農地や水路を含めた現在の状況と、それに対する成果を聞きたい。

<木曾委員>

事務事業評価ではなく、決算審査の中で聞いてはどうか。水路の改修は各地域でもっとたくさんある。経年劣化してくる部分が多い。そういう内容なので、難しい内容ではない。耕作放棄地の問題もあると思うが、水路は一体的なものである。違う観点で見て、決算審査の質疑で聞いてはどうか。

<藤本委員>

それでよい。耕作放棄地をどのように利活用しようとしているのか分からない。

<奥村委員長>

耕作放棄地は農業委員会が調査し、それを受けて担当課がどのような施策を取るかである。多面的機能支払推進事業は、平成19年の第1次安倍内閣の時に、農地・水・環境保全向上対策事業でできた。最初は5年間だったが名前が変わり、10年も続いている。各営農組織にとっては大きな補助金である。蕨田野町の太田で年間約400万円もらっている。10年で4千万円になる。圃場整備をしたところの農道整備を行い、間もなく舗装が全部終わる。地元ではできないようなことができた。また農地の管理、池ののり面や川の堤防の草刈り等も行っている。大変良い事業ではあるが、農業ばかりなので、行き過ぎの面もあると思う。

<木曾委員>

国営圃場整備をした川東地域でも、耕作放棄地とは言わないが、耕作できないところがたくさんある。1反あたり50万円や30万円で売っているところもたくさんある。水路改修ができているところでも耕作放棄地は出てきている。全体の部分は総合農政計画審議会で審議すべき問題である。

<藤本委員>

耕作放棄地等がどのくらいあるのか。圃場整備しても耕す人がいないのか。ふるさと納税の返礼品としての農産物が足りないような状況で、担い手がいない中、どの

ように農業生産を拡充しようとしているのか聞きたい。

<木曾委員>

多面的機能支払推進事業経費は決算審査で聞いてはどうか。

<奥村委員長>

観光と商工から1つずつ選んではどうか。なお、まちづくり推進部からの抽出がなくなるがよいか。(了)

<奥村委員長>

では担い手づくり育成事業経費は外すこととする。観光推進経費は範囲が広いので、全体にするのか抽出するのか。ただ、補助金を含めて全体の経費が適正かどうか聞きたいとの意見であり、全体にしなければ仕方がないのではないか。

<事務局主任>

外国人観光客誘致の経費など補助金以外の部分もいろいろあるが、それも入れるのか。それとも補助金のみに絞るのか。

<木曾委員>

観光推進経費については、次回の論点整理の際に絞ってはどうか。

<奥村委員長>

そのように取り扱う。商工業振興対策経費はどうするか。亀岡商工業振興事業補助経費は商工会議所に対する補助金なのでどうか。

<木曾委員>

花火大会だけの話なら観光の方がよい。それ以外の部分で事業費をつけているものの成果等を聞いたら良いが、花火大会だけ聞くのはどうか。補助金について聞いたらよい。人的な部分に補助金を出しているのか、事業費として出しているのか。事業費として出しているものはどういう事業なのか。そこは論点を絞らなければならない。

<奥村委員長>

経営・経済動向調査もお金を出して調べてもらっている。商工業振興対策経費に決定してよいか。(了)

<並河委員>

以前は700万円くらい人件費が出ている時があったのではないか。

<藤本委員>

商工会議所の経費を市が出しているのか。

<奥村委員長>

それはいけないことではない。

<木曾委員>

人件費で出す分には難しいことはないが、目的がなければならない。京都府からも人件費名目で経営指導員のお金が出ている。商工会議所の会員だけではなく、一般の経営者の経営指導も行うように府が委託している。

<奥村委員長>

他の公的な団体、例えば社会福祉協議会にも人件費を出している。

<木曾委員>

補助金は補助金、人件費は人件費できちんと位置づけしないと、行政の天下り先になる可能性がある。そういうために補助金を使うのではない。適材適所ならよいが、そこを勘違いすると国と同じことになる。

<藤本委員>

農業公社も補助金の大半が人件費である。それだけの人件費を払って、どのくらい

の成果があがっているのか。

<奥村委員長>

農業公園でなぜ年間500～600万円の経費が要するのか。いろいろな都市公園があるが、地域の人が管理していたり、市が管理している公園でもそんなに使っていない。

<木曾委員>

外郭団体に人を送り込むことにより、それだけの財源を出していかなければならない。結果として外郭団体に出す予算も、亀岡市がトータルでお金を出しているものであり、きちんと見ていかなければならない。それは人件費の中には含まれていないかもしれないが、本当は人件費である。緑花協会や体育協会にも人件費を出している。亀岡市そのものの人件費は正職員でくくっているが、本当はそれも入っている。いったん退職して事業費の中で出すべきであり、紐付きで出すから話が難しくなる。いずれ整理すべきである。

<奥村委員長>

農業公園には誰も行っていない。農協が行っている。商工業振興対策経費と観光推進経費は、ものづくり産業課と観光戦略課の対応となる。あと、農林から選ぶなら農業公園の関係で農業事務経費はどうか。ほぼ単費である。公園緑地整備事業費の公園の今後の整備については別途聞くこととするが、京都スタジアム（仮称）検討特別委員会との兼ね合いもある。

<木曾委員>

公園はスタジアムから離れているのではないか。

<事務局主任>

京都スタジアム（仮称）検討特別委員会との関連がある。以前、特別委員会の質疑項目として京都・亀岡保津川公園の項目をあげていた。取り扱いを整理する必要がある。

<奥村委員長>

事務事業評価は農業・商業・観光の3点とする

<事務局長>

石野副委員長が言われた農業担い手づくり育成事業経費はどのようにするのか。

<石野副委員長>

外してよい。

<奥村委員長>

通常決算審査の中でどうか。（了）

<奥村委員長>

それぞれ次回の論点整理で、委員会としての共通認識にしたいと考える。

<事務局主任>

論点整理は、3分科会共通した日程案として9月19日の常任委員会の審査後としている。しかし事務事業評価資料は12日に配付する予定である。その資料は、絞り込めていない中で、多くの項目を掲載した資料でよいのか、それともこの場で絞り込みを行うのか検討いただきたい。

<奥村委員長>

補助金でよいのではないか。

<事務局主任>

商工業振興対策経費も補助金関係ということでよいか。

<木曾委員>

それでよい。

<奥村委員長>

補助金が適正に支出されているのかということである。

<木曾委員>

事業効果が上がっているかを知りたい。

<事務局主任>

商工業振興対策経費の中に企業立地奨励金、雇用促進奨励金、商工業振興下水道助成経費等があるが、それはどのように取り扱うのか。

<奥村委員長>

それも一緒に入れておき、件数や実態を報告してもらったらよいのではないか。

<木曾委員>

補助金に対してどういう効果があったのかという話である。成果を言ってもらったらよい。

<並河委員>

商工業振興対策経費は昨年も事務事業評価を行い、見直しの上継続としているが、また今年も行うのか。

<木曾委員>

それでよいのではないか。

<事務局主任>

昨年度は、商工業振興対策経費の中から絞り込んで、商店街等活性化推進事業について事務事業評価を行っている。

<奥村委員長>

今回はもっと大きく、全体について行う。以上3点で決定する。限られた時間の中で論点に沿った質疑を行い、円滑かつ適切に評価できるよう、次回は9月19日の常任委員会終了後に論点整理を行う。予備日はいつか。

<事務局主任>

決算特別委員会は20～22日、25日、26日と設定しているが、例年、最初の3日間で集中的に審査し、4日目を予備日としている。現地視察を行うなら最初の3日間で行うこととなる。現地視察についても協議いただきたい。

<木曾委員>

現地視察は不要なのではないか。事務事業評価はどの日程で審査するのか。

<事務局主任>

例年、3分科会で相談して決定している。20～22日の間のどこに組み込むかについては、項目数にもよるので、まだ決定していない。

<木曾委員>

他の分科会の事務事業評価は傍聴できるのか。

<事務局主任>

例年では、他の分科会が全員協議会室で事務事業評価を行っている時、委員会室で審査を行っている。日程にもよるが、傍聴は難しいかもしれない。

<奥村委員長>

事務事業評価の部分は、通常の決算では一切説明されないのか。

<事務局主任>

事務事業評価に関する部分はとばして説明される。

<木曾委員>

昨年は3日間のうちの最後の日が事務事業評価だったのか。

<事務局主任>

昨年は2日目の午後から組んでいるが、年によっていろいろである。

<奥村委員長>

農林の説明が長い。もう少し短くするように伝える。今回は、商工業振興対策経費と観光推進経費を事務事業評価に入れるので、その部分は短くなる。

<木曾委員>

細部に渡った資料を事前にいただいているのであり、質疑もポイントを絞るべきである。

<奥村委員長>

昨年の数字や観光入込客数等は聞かないようにされたい。

<木曾委員>

細かい数値は資料請求で対応されたい。それより中身について質疑されたい。

<奥村委員長>

9月19日に論点整理を行うのでよろしく願います。

～散会 15:47